

## 【特 選】

過ちを認める

東部中学校 三年生の作品

「わたしがわたしとして生きること許してほしい」

この言葉はナチスによるユダヤ人迫害が起きていた中、ユダヤ人であるアンネが隠れ家で残っていた日記にあったものです。そんなのあたり前だと感じる人が多いと思いますが、本当の自分の姿で生きることが許されず、生きていくことを隠してすごさなければならぬ、そんな辛い思いをした人がいます。

当時、ドイツでは混乱や、不況な状況が続いていました。それらを全てユダヤ人が原因とし、ユダヤ人への差別が始まりました。ユダヤ人は交通機関を使ってはいけない、外

出できる時間の制限、娯楽施設の利用やスポーツ施設の利用禁止。これらのような法令がユダヤ人に対し、山ほど出されていき、ユダヤ人の自由は制限されていきました。そして、ユダヤ人には他の民族を区別するために黄色い星印をつけなくてはなりませんでした。この星印をつけて歩くすれ違う人々には気の毒そうな目を向けられ、時には「ゲシュタポ」というドイツの国家警察に乱暴されることもあったようでした。私がそんな立場だったらすぐにでも引き剥がりたいし、ユダヤ人というだけなのにたまったもんじやないと思います。隠れ屋に着いたとき、アンネの同居人であるペーターは、「この星印は燃やす。乱暴されるのはうんざりだ。」と話していました。私たちが想像する以上に辛く、「なぜ私たちなのか」と怒りも大きかったはずです。

このような差別や、人権侵害を受けたのはアンネたちだ

けではありません。親からの虐待、学校・職場でのいじめやパワハラ・体罰など現代でもたくさんの人権侵害が起きています。

その中で最近、話題になっているのはSNS上での誹謗中傷です。誰もが一度は聞いたことがあるでしょう。私が考える誹謗中傷をする理由はストレス発散の方法の一つとしてやっていると思います。SNSでは、様々な個性を持った人々がいる中で、自分より劣っている人や人の欠点を見つけ、優越感に浸ることでストレスが解消されると思いますからです。特に芸能人はSNSでも目立つ存在となりますし、相手側に見られることはないだろうと、芸能人への誹謗中傷を楽観視しているため、芸能人への誹謗中傷はなくなるどころか、減りもしないのです。みなさんは顔も知らず、話したこともない人たちに自分の悪口を言われたり、

自分のコンプレックスを指摘されたりしたらどう思いますか。少なくとも私はいい気持ではありません。コンプレックスを指摘されることは何よりも嫌ですし、自分の長所ですら否定されるのはとても悲しいと思います。一度、言われたら忘れることはできません。悪口を言われても、言われた本人はどうすることもできませんし、心に傷が残ったままです。その傷が増えるとだんだん追いこまれていき、最悪自殺することもあります。それほどの力が誹謗中傷にはあるのです。軽々しくやっているのであれば今すぐやめてください。

これらのことを通して私はこのような作文を書く必要がない社会になってほしいと思います。互いを尊敬し合い、互いを受け入れることが当たり前という世界を作りたいです。もちろん、今までの過ちを次の世代へとつなぐことも

大切に、過ちを過ちと認め、成長していくことがそんな世界をつくる鍵となればいいなと思いました。

今、起きている戦争、人権侵害が少しでもはやくおさま  
り、減っていければいいです。そう願います。